

工作機械工業 収益状況集計

(2016年度 第2四半期)

会員企業のうち2016年11月末迄に2016年度第2四半期決算を公表している専業比率30%以上の上場企業18社を集計。集計調査対象企業における専業比率は、82.7%。なお、今期は会員の新規加入等に伴い、前年度から2社増となっている。

1. 連結決算の概要

表1 連結決算の概要(18社)

(単位：百万円・%)

	16年度 I 期	16年度 II 期	16年度 I ~ II 期	前年同期比	15年度 I ~ II 期
売上高	144,372	170,915	315,287	▲12.8	361,364
売上総利益	41,677	48,185	89,862	▲14.5	105,151
売上総利益率	28.9	28.2	28.5		29.1
営業利益	5,365	10,902	16,267	▲41.8	27,951
営業利益率	3.7	6.4	5.2		7.7
経常利益	3,130	10,006	13,136	▲51.8	27,277
経常利益率	2.2	5.9	4.2		7.5
当期利益	1,415	6,497	7,912	▲58.3	18,976
当期利益率	1.0	3.8	2.5		5.3
総資産	933,182	943,686	943,686	▲4.6	989,362
純資産	511,952	507,535	507,535	▲6.1	540,716
自己資本比率	54.9	53.8	53.8		54.7
自己資本 当期純利益率 (ROE)	1.1	5.1	3.1		7.0

(注) 自己資本当期純利益率 (ROE) は年率換算値

表2 損益状況一覧 (連結・I ~ II 期計・前年同期比) (18社)

(単位: 社)

	増 加	減 少	合 計
売上高	1	17	18
売上総利益	2	16	18
営業利益	3 (0)	15 (4)	18 (4)
経常利益	4 (0)	14 (4)	18 (4)
当期利益	4 (1)	14 (5)	18 (6)

※()内の数字は、赤字企業数。赤字幅が縮小した場合は「増加」、赤字幅が拡大した場合は「減少」となる

2. 2016年度通期見通しの概要

表3 【第2四半期時点】連結業績予想の概要（18社）

（単位：百万円・％）

	2016年度通期見通し			2015年度実績
	第1四半期時点	第2四半期時点	前年度比	金額、比率
売上高	715,711	677,628	▲10.0	753,130
営業利益	50,464	42,635	▲30.9	61,701
営業利益率	7.1	6.3		8.2
経常利益	48,783	39,460	▲33.9	59,662
経常利益率	6.8	5.8		7.9
当期利益	34,018	27,664	▲31.1	40,158
当期利益率	4.8	4.1		5.3

表4 【第2四半期時点】連結業績予想の増減（売上高、経常利益）（18社）

通期 (対前年度比)	増収増益	1社 (2社減)	増収減益	1社 (増減なし)
		減収増益	4社 (1社増)	減収減益

※（ ）内は、第1四半期時点からの増減社数

◎第1四半期時点からの修正理由

【売上高、経常利益とも上方修正 …1社】

- ・第2四半期累計について、売上高は前回予想値とほぼ同じとなる見込みだが、利益面では、各種経費の見直しやコスト削減の効果により、営業利益、経常利益及び四半期純利益について前回予想を上回る見込みとなった。通期予想についても、第2四半期累計の上方修正に伴い、各利益について前回予想を上回る予想に修正。

【売上高は下方修正、経常利益は横ばい …1社】

- ・最近の受注動向を鑑み、売上高のみ修正

【売上高は上方修正、経常利益は下方修正 …1社】

- ・売上高は納期の関係で当初予想を上回る見込みとなった。しかしながら、利益は原材料等の増加が見込まれるため、前回予想をやや下回る見込み。

【売上高、経常利益とも下方修正 …8社】

- 直近の円高基調の定着や企業の設備投資抑制の影響から工作機械需要全体が落ち込んでいる状況に加え、中国市場の需要の減少については、現在も継続している状況。そのような足元の需要の落ち込みや、直近の受注状況等を踏まえ、売上高の減少が見込まれることから、利益水準を含め修正。
- 売上高は、自動車関連メーカー向け専用工作機械や建材事業の住宅防音工事が減少したことなどにより、前回予想を下回る見込み。利益面においては、減収による利益減や、依然として厳しい価格競争の中で受注を確保している自動車関連メーカー向け専用工作機械の採算が予想を下回ることなどにより、営業利益は前回予想を下回る見込み。為替差損を営業外費用に計上し、関係会社出資金評価損を特別損失に計上するため、経常利益、四半期純利益は前回予想を下回る見込み。

- 市況の低迷による売り上げの減少に伴う営業利益の減少と、円高による為替差損を計上するものの、ロイヤリティー収入等の営業外利益で一部を補う。
- 円高及び国内売り上げの減少による。
- 第2四半期は、工作機械部門において、国内は比較的堅調に推移したものの、海外は先行きの不透明感から設備投資全般が低調に推移し、環境悪化に伴う利益率の低下と原価低減が進まなかったことにより、売上高、営業利益ともに予想を下回る。また為替の円高傾向による売上債権の為替評価損計上等のため、経常利益、四半期純利益についても予想を下回る。通期の業績予想についても、足元の国内受注は依然順調に推移しているが、第2四半期までの業績が予想を下回り、下期の想定為替レートを見直したため、売上高、利益ともに修正。
- 第2四半期の受注・売上状況、業績、及び今後の為替レート、工作機械需要の先行き見通しなどを踏まえ、売上高、営業利益、経常利益、当期純利益はそれぞれ前回予想を下回る予想とした。
- 為替レートが円高に推移していることなどから、工作機械事業を中心に販売が伸び悩み、売上高を下方修正。また、利益については、売上の減少などに伴い、それぞれ下方修正。なお、見通しの前提となる第3四半期以降の為替レートは、米ドルは100円、ユーロは110円。
- 第2四半期の業績は国内・海外ともに当初予想通りであったが、為替影響で売上高、経常利益、四半期純利益は当初予想を下回った。通期予想は、国内・海外市場とも先行き不透明感があり売上高は当初予想を下回る見込みだが、利益面については原価率の改善効果等もあり、当初予想をやや下回る程度と予想。

3. 工作機械事業セグメントの概要

表5 工作機械事業セグメントの概要 (18社)

(単位:百万円・%)

	16年度	前年同期比	15年度
	I～II期		I～II期
売上高	260,887	▲15.1	307,113
営業利益	19,199	▲32.4	28,406
営業利益率	7.4		9.2
専業比率	82.7		85.0

表6 【参考】工作機械事業の概要 (26社)

(単位:百万円・%)

	16年度	前年同期比	15年度
	I～II期		I～II期
売上高	398,412	▲13.8	462,097
営業利益	28,228	▲28.5	39,503
営業利益率	7.1		8.5
専業比率	23.8		25.6

※表5の対象企業18社に加え、セグメント情報を公表している専業比率30%以下の会員企業8社を加えた26社で集計

【調査対象会員企業（順不同）】

(専業比率 30%以上の集計対象企業)

エンシュウ株式会社
浜井産業株式会社
豊和工業株式会社
小池酸素工業株式会社
黒田精工株式会社
株式会社牧野フライス製作所
株式会社岡本工作機械製作所
OKK株式会社
オークマ株式会社
株式会社桜井製作所
西部電機株式会社
株式会社ソディック
スター精密株式会社
株式会社太陽工機
高松機械工業株式会社
株式会社滝澤鉄工所
株式会社ツガミ
株式会社和井田製作所

(専業比率 30%以下の集計対象企業)

株式会社アマダホールディングス
富士機械製造株式会社
株式会社不二越
株式会社ジェイテクト
倉敷機械株式会社 (倉敷紡績株式会社)
株式会社三井ハイテック
株式会社オーエム製作所 (ダイワボウホールディングス)
東芝機械株式会社